

庭の山吹 同人

七重八重と云ひし昔はしのばる、

雨はそはてる庭の山吹



研究

臺灣の昔話

町田 則文

第四 神、佛、仙人及び妖怪に關する談話

一、盜賊に殺されし亡魂の物語をせし話。

二、明の冷子冰といふ人、學を好み、一試に應じて上進し、後仙法を學び、百年にして若びざりしと云ふ話。

三、李悛といふもの、初め貧にして、乞食なりしが、後福徳神の掌とする山中の銀を授かり、大富となりしといふ話。

四、哪吒太子といふ神は小兒を守護するといふ話。

五、丁七娘といへる女あり、繼母の惡む所となり、日々山に入りて、薪を採らしめらる、此山に薪なくして、猛虎多かりければ、九天玄女といふ仙女之を救ひ、鳳凰山金剛洞といふに入り、仙術を學ばしめしが、後繼母は惡疫にかゝりて死せしといふ話。

六、一古寺中雄雞死後人に生れしといふ話。

七、人身半面の妖怪ありしといふ話。

八、人身牛面の妖怪あり人を食ひしといふ話。

九、馬槽の妖怪あり、口炎を吐き、手に一刀を揮ひしといふ話。

右の談話は人類學上人類の思想を判定するの資料

としては、之を細論するの必要なかるべし。中に

つぎ教訓的の意味を含むの多少を比較すれば左の

如し。

教訓的の意味を含める話

九分一

純粹なる神話怪談

九分八

中に就き、哪吒太子の話は、三人同伴なるは、臺灣土人が宗教思想の幼時より、涵養せらるゝを知るに足らんか。

第五 植物に關する談話

- 一、錫口及上陂頭各所の竹に米を生ぜし話。
 - 二、泉州惠安縣に大松樹あり樹根に地瓜の産せし話。
- 右は僅々二件にして共に愛笑的の事實に係る。

第六 金石及び自然の現象に關する話

- 一、劍潭の底に一劍あり、夜々陰雨の時劍氣上騰せりといふ話。
- 二、金源寺といふ古寺の話。
- 三、某山邊に金盾ありとの話。
- 四、一點滴三百斤の重さのある雨降りしといふ話。
- 五、一點滴の雨の爲に人は壓死せられしといふ話。
- 六、一聲の雷鳴天下に響しといふ話。
- 七、洗金の山に大石あり、石中金蘭花を生ぜしといふ話。
- 八、山に一粒の自然金ありとの話。

右總て八件亦皆愛笑的の事實にかゝる中に就き、

劍潭の事實は一の歴史的事實として、淡水廳志の如きに記しあり、劍潭夜光といへる名と共に、人口に膾炙するものなれども、要するに、愛笑的事實の一たるを免かれざるべし。

上來記し來る談話、乃ち古談の性質を案するに、臺灣に於ける特發の事實ならんと思はるゝもの稀にして、皆支那に於ける古談の性質ならざるはなし、唯生蕃人を殺すの事實話のみ、是れ固支那本土人の想像せざる所にして、蓋し臺灣特發の古談ともいふべき歟、又水牛の支那本土に在りて、臺灣の草を食ひしといふは、支那人が移殖の歴史と聯想せらるゝ特發の談話なるべくして、元支那的古談の性質なれども多少臺灣移殖の歴史ありて後、此古談の生ぜし事を推知せらる。

(一) 教訓的の意味を有する古談、三八件

(二) 教訓的の意味を有せざる古談 五四件、
 にして教訓的古談は非教訓的古談の殆ど百に對する
 四十一に過ぎず、以て其家庭に於ける教育の一
 斑を知るべきなり。

最後に尙一言すべきは古談、乃ち昔話なるもの
 、常款なく、内地に於ては殆ど家庭教育の主要なる
 位地を占むると同一ならざる實を表するを見るべ
 し、夫の内地に於ける「桃太郎」の如き「花咲爺」の
 如き、「かちく山」の如き、「猿蟹合戦」の如きを見
 見よ、蝦夷かすむ奥羽の北端より、筑紫の南端に
 到るまで、多少技藝の變化あれども、全く同款に
 行はれ、家々の兒童が先づ耳に社會の事相を知り
 得るは此古談なるに、臺灣には各人各其聞く所の
 事實を異にし、三十九人の生徒中同一古談を記し
 たるは僅々八件に過ぎず、乃ち

- 一、孔融四歳にして梨を兄に譲りし話。 二人同件
 - 二、吳猛親の爲に自身を蚊に咬ましめし話。 四人同件
 - 三、鼠の猫を捉へて竹桿に上りし話。 二人同件
 - 四、鶏と鴨と戦ひし話。 二人同件
 - 五、蛇の田給を食ひし話。 二人同件
 - 六、金姑の牧羊中夫を想ふ話。 二人同件
 - 七、近視の人、田螺と鶏屎と誤りし話。 二人同件
 - 八、哪托太子は小兒の神なりとの話。 二人同件
- にして、最も多きは四人同件なるのみ、乃ち臺灣
 の家庭に行はるゝ談話は畢竟偶然の事實にして家
 庭教育の必須要件として認められず、隨て常款の談
 話の性質なしといふべきか。(完)

幼兒の工夫

其一 (てふく)の譜

こどもこども なにをみてよろこぶ
 かけつこするのを みてよろこぶ